平成 26 年

５月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～

岐阜県農政部農業経営課

平成２６年５月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

恵那農林　■クリ　将来に向けて栗園の苗木づくりに取り組む！

恵那市中野方町のグリーンピア恵那の跡地を活用した笠置山栗園では、これまでに6.3ha を造成・整備し、約 2,000 本の苗木が植栽された。

植栽後の苗の中には枯れるものもあることから、笠置山栗園を管理する笠置山栗生産組合は、枯れた分を再植するための補植用の苗づくりに取り組んでいる。去る５月１日に、恵那市栗栽培振興会との合同作業により、２年前に播種し育てた苗を台木にしてクリの品種を接ぎ木した。ＪＡひがしみのの協力のもと、農業普及課では接ぎ木方法を指導し、20 名の参加者により約 600 本を接ぎ終えた。経験の浅い生産者もおり、貴重な勉強の機会となった。恵那農林事務所では、今後も今回のような栽培管理技術指導や鳥獣害対策、経営計画樹立・法人化支援（農業普及課）、県営事業による園地造成（農地整備課）などを通じて、「笠置山栗園」の整備と「笠置山栗生産組合」の活動を継続してサポートしていく。

クリ接ぎ木苗ができるまで

栗の種子をは種（は種後のほ場）

１年後

苗に育ったものを掘り上げ･移植

さらに1年後

接ぎ木作業

１年間養生し苗木完成！

中濃農林　■円空さといも　全期間マルチ栽培の発芽は順調！

中濃里芋生産組合では栽培実証ほを設置しており、農業普及課が支援している。現在、種芋プランタ（さといもマルチ同時植付け機）の有効活用のため植付け時期を拡大することが実証テーマの一つとなっており、関市下有知の実証ほでは、3月～5月に計9回の植付けを行った。初回植付けは3月6日に行い、その後気温が氷点下となる日もあったが、発芽には問題がなかったことから、全期間マルチ栽培については、植付け時期の前倒しが可能と考えられた。今後とも定期的に生育調査を行い、実証試験を進めていく。

【実証ほの発芽状況】

農業経営課　■キク　飛騨黄金の現地研修会を開催

５月 28 日、29 日に中山間農業研究所と下呂市萩原町の両ほ場で、それぞれ 18 名、５名の生産者の出席を得てキク‘飛騨黄金’の現地研修会を開催した。

研修の内容は、整枝作業と６月の管理が中心で、現地ほ場では整枝方法の作業確認を行い、作業適期についての質問が出された。６月は出荷時期を大きく左右する花芽分化時期となるため、温度・灌水管理の注意点を強調するとともに、ハダニやアブラムシの防除の徹底を図った。

【管理作業の説明風景】

郡上農林　■夏秋いちご

6月出荷の体系化に向けて早出し作型を実証

郡上市高鷲地域では夏秋獲りいちごの産地化を進めており、その中で、6 月から出荷する早出しを狙った作型開発に取り組んできた。昨年 9 月に定植し、1mを超す雪の中で冬を越した株が順調に開花し、予定より早く 5 月 30 日からＪＡを通じて出荷が始まった。

定植時期や苗の条件が年により異なるものの、2 年前から実証調査に取り組んでいるため、2 年間の成果に基づき 6 月出荷の体系化と普及に向け、今後も調査を継続する予定である。

【早出し作型の開花の様子】

売れる農畜産物づくり

揖斐農林　■揖斐茶

品評会出品茶を手摘み！～１心２葉、心を合わせて～

4 月 27 日と 5 月 2 日、揖斐川町桂の現地茶園において品評会出品茶の摘採が行われた。両日とも組合員、関係機関職員、県職員ボランティア約 130 名が計 4 ほ場でそれぞれ約 40kg の新芽を摘み採った。1 心 2 葉で摘み採られた新芽は即、加工場に持ち込まれ、講師による研修を兼ねた加工が行われた。 1 点の加工に 4 時間以上を要し、満足のいく出来栄えとなった。

【手摘み風景】

池田町では、「関西茶業振興大会 岐阜県大会推進協議会」により 3 組合で計 3 点の手摘みによる品評会出品茶の摘採・加工が行われ、‘美濃いび茶’産地として「互いに頑張る」意欲に満ちあふれていた。

農業普及課は、機運の醸成や摘み子の養成を主眼に置いた人員確保を支援するとともに、当日の手摘み指導、加工の助言を行った。

【加工にも熱が入る】

【針のように細く･･･】

可茂農林　■白川茶　　**一番茶の摘採始まる**

5 月上旬の低温の影響が心配されたが、大きな凍霜害もなく順調に生育し、白川町では平成 26 年産一番茶の摘採が、平年より 2 日ほど遅れて始まり、また東白川村、七宗町、八百津町でも順次始まった。

5 月 16 日には、第 1 回一番茶共販会が白川茶流通センターで開催され、昨年よりやや多い 1.8ｔの荒茶が入札取引にかけられ、地元業者を中心に買いつけがあった。

また、各町村茶業振興会を中心に、県茶総合品評会に出品する荒茶の摘採加工も進んでいる。本年は東白川村において表彰式が開催されるため、管内では、東白川村が 14 点、白川町 25 点、七宗町 5 点、八百津町 3 点の計 47 点の出品を予定している。

農業普及課では、県茶総合品評会へ出品する荒茶の摘採加工を支援している。

【出品茶の摘採状況】

多様な担い手の育成・確保

岐阜農林　■柿　本巣市柿新規就農者公募を開始

㈱柿振興会では、年々優良樹園地が減少する中、担い手対策として柿の新規就農者募集を５月 26 日から開始した。これを契機に担い手対策も加速し、柿の全国トップブランドである㈱ブランドの維持拡大に向けた起爆剤として期待されている。農業普及課では、関係機関、県関係各課と連携して、公募ＰＲ、研修生受入れ体制の整備を進める。

【5/26 第１回運営協議会】

西濃農林　■新規就農支援　西濃地域（海津）就農支援会議を開催

５月 14 日、西濃農林事務所主催で、県就農支援センター研修生を円滑に就農に導くための支援会議を開催した。

第１回目の開催となる今回は、冬春トマトの就農研修生４名と海津トマト部会（部会長、副部会長）、関係機関（ＪＡにしみの、海津市、西濃農林事務所）との顔合わせを行った。

会議は、就農支援会議の目的と今後の活動及び就農計画や補助事業の紹介の概要を説明したのち、2 グループに分かれ、研修生との自由な意見交換を行った。今回、今後支援を進める関係者が、就農を目指す４名の考え方などを直接聞くことで、４名それぞれに対する具体的支援の方向性を共有することができた。今後も関係機関と役割分担をしながら新規就農者に対する支援を進めていく。

【研修生との情報交換の様子】

下呂農林　■新規担い手育成　トマト体験研修を開催

下呂市蔬菜出荷組合では、下呂市担い手育成支援総合協議会の協力のもと、昨年より地域内外からの新規就農者を獲得するために体験研修を企画しており、本年は5月11、18日に萩原町のトマト農家ほ場で実施した。

11日は雨よけハウスを建て、18日は定植前後の作業を行った。市内だけでなく県外の就農希望者に加え、指導農業士のもとで研修中の研修生も参加し、実際の作業を体験した。

今後は収穫体験等を4回予定しており、研修内容のさらなる充実、参加者を増やす取り組みを含めて活動してゆく。

【定植体験研修】

飛騨農林　■担い手　今年も開催！夜間勉強会

青年農業士会連絡協議会飛騨支部並びに高山４Ｈクラブは、５月 27 日夜間勉強会を開催した。今年で３年目の取り組みとなるこの勉強会は、会員の栽培技術の向上を目的とし、青年農業士のほか地域の新規就農者や長期研修生らを招待して行われている。今年度の第１回目は 「最適な土づくり」をテーマに肥料メーカーから講師を迎えて開催され、27 名が参加した。

本会に対しては参加者からの評判も高く、今後も開催を希望する声も多いため、農業普及課では、引き続き開催を支援していく計画である。

【夜間勉強会の様子】

魅力ある農村づくり

東濃農林　■地産地消　野菜づくり塾を開催

【野菜づくり塾の様子】

5 月 19 日、「みずなみ野菜づくり塾」が始まった。農産物直売所「きなぁた瑞浪」の出荷者掘り起しを目的に開催されているが、今年は県単事業補助が終了し市単事業補助のみで継続して行われている。当日は農業普及課が講師を務め、土づくりに関する座学の後、全員で夏野菜（トマト・ナス・キュウリ）の定植作業を実習した。受講生は 23 名、その内 12 名が新規の参加者であった。

また、新しい試みとして「かまど野菜づくり塾」も並行して開催しており、5 月 12 日は地区役員を講師に、夏野菜の定植・播種作業を実習した。農業普及課が企画段階から参加し、釜戸公民館の協力を得て、公民館事業の一つとして開催するものである。地域密着型の塾ということもあり、新規の参加者が 20 名と多く、新たな出荷者に育つことが期待される。

現在、きなぁた瑞浪への出荷者は約 240 名が登録されているが、高齢者が多く、直売所を将来的に維持発展させるには、新たな出荷者の育成確保が必要不可欠であり、こうした塾を継続して支援していくこととしている。